

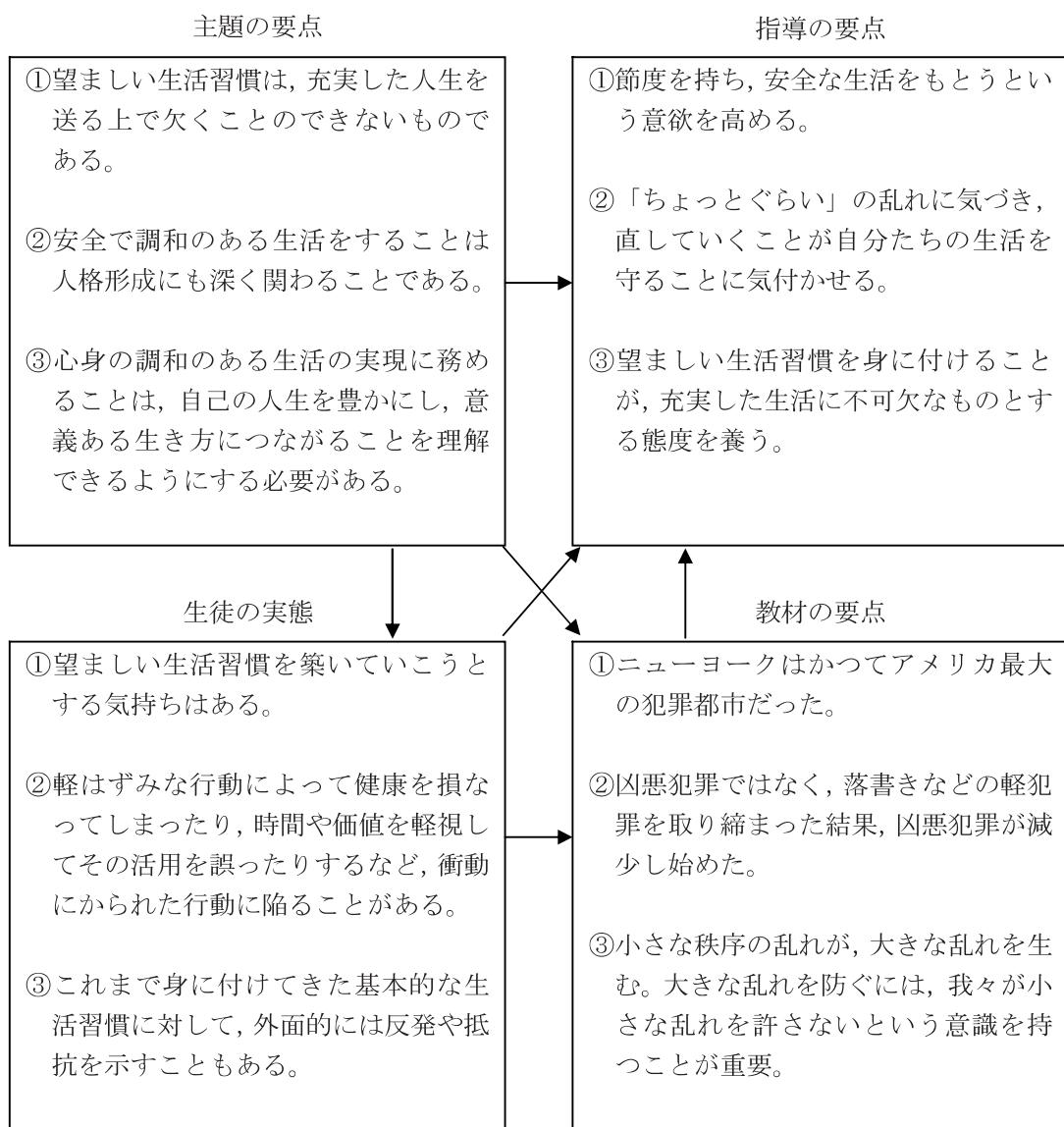
中 学 校

## 道徳學習指導案

1 主題名 望ましい生活習慣 [節度, 節制 A-(2)]

2 教材名 ニューヨークを救ったアイディア

3 主題構成の観点



4 ねらい

望ましい生活習慣を身に付け、節度を守り節制に心がけ、調和のある生活を送ろうとする態度を養う。

## 5 指導過程

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	①今の自分の生活に「慣れ」や「緩み」がないかを振り返る。	○最近の学校生活はどうですか。 ・慣れてきた　・いい感じ ・少し横着になってきた	○まずは自分たちの状況を確認させる。
展開	②ニューヨークの取組について考える。  ③教材「ニューヨークを救ったアイディア」を読む。  ④これからの自分の生活を考える。	<p><b>【発問 1】</b>  <b>アメリカ最大の犯罪都市だったニューヨークが、凶悪犯罪の発生をなくすために、取り組んだことは何だろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警官を増やす　・罰金を取る</li> <li>・防犯カメラを増やす　・罰則を重くする</li> </ul> <p><b>【発問 2・中心発問】</b>  <b>実際の取り組み（落書きを消す、軽犯罪を取り締まる）が効果を上げたのはなぜだろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな街なら悪いことをしにくい。</li> <li>・悪いことは小さなことから始まる。</li> <li>・みんなが取り組んだから。</li> <li>・一人一人が気をつけるようになったから。</li> <li>・誇りを持てるようになったから。</li> </ul> <p><b>【発問 3】</b>  <b>身の回りにあるちょっとした気のゆるみと、それを改善して得られるとは何だろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋をきちんと片付けられない。 ▶気持ちが引き締まる。</li> <li>・宿題や提出物を出したい。 ▶成績が上がる。</li> <li>・友達にきついことを言わない。 ▶相手を傷つけない。</li> </ul>	○自分が市長になったら、として発問する。 ○黒板に生徒の答えを書いていき、様々な意見を提示させる。 ○教師が範読する。  ○「ちょっとぐらいがだんだん大きなゆるみにつながる」「人は形の影響を自他共に受けていること」の文に注目させる。 ○ホワイトボードを使って、グループ内で出された意見を表示する。 ○なぜ身の回りをきちんとすることが、生活の立て直しにつながるのかを考えさせたい。 ○自分自身を見直し、律していく強い心を持つことの大切さを考えさせたい。 ○人は形の影響を自他共に受けていることを考えさせたい。
終末	⑤ワークシートに自分の考えをまとめる。	○この時間に感じたこと、考えたことをまとめてみよう。	○ワークシートに記入させ、学級通信で全て紹介する。

## 6 評価

- 授業に積極的に参加することができたか。（観察・発言）
- 「ちょっとくらい」の乱れに気付き、行動を律していく意欲が持てたか。（ワークシート）
- 望ましい生活習慣を身に付けることが、充実した生活に不可欠なものであることが理解できたか。（ワークシート）

## 『道徳の授業ワークシート』

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

1. ニューヨークで犯罪の発生をなくすために取り組んだのは何だろうか。

予想した取組 :

理由 :

2. 実際の取組が効果を上げることができたのはなぜだろうか。

理由 :

3. 身の回りにある「ちょっとした気のゆるみ」と、それを改善して得られることは何だろうか。

気のゆるみ :

得られること :

4. 今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。

### ☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ← ふつう → まったく

教材はよかったです	5	4	3	2	1
共感・感動したか	5	4	3	2	1
新たな発見があったか	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができたか	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1

## 「ニューヨークを救ったアイディア」

京都府では平成21年度より、「敗れ窓理論」に基づいた犯罪対策実践運動を導入し、社会環境の浄化活動を行っている。安心・安全な街をちょっとした意識で実現しようというのだ。ではその「破れ窓理論」とは一体どのような理論なのか。

1970年以降、ニューヨークでは犯罪が急激に増加し、次第に「危険な街」と呼ばれるようになっていた。そして1990年、ニューヨーク市警察が発表した年間の殺人事件数は史上最多の2245件を記録。ニューヨークは、アメリカ最大の犯罪都市になってしまったのである。

当時、犯罪が増え続けていたニューヨークでは、特に凶悪犯罪の取り締まりに力を入れていた。しかし、警察の捜査は追いつかず、当時の地下鉄でも凶悪犯罪が多発し、利用者数は過去最低にまで落ち込んでいた。地下鉄を管理するニューヨーク市交通局では、パトロールや警備強化による対策をとつていたが、なかなか治安が回復することはなかつた。

そこで1984年、交通局のデビッド・ガン局長は地下鉄の治安回復を目指して、世界中の警察活動を調査・分析してきたルドガーズ大学の刑事司法学者、ジョージ・ケリング教授のアドバイスのもと、150万ドル（当時の1憶五千万円）の費用を投じて、治安回復プロジェクトを発足させた。そしてなんと、教授は巨額の費用を投じて「地下鉄の落書きを消す」と発表したのである。

当時、ニューヨークの地下鉄は、駅のホームや車両のすべてがおびただしい落書きで覆われていた。「落書きを消す」という驚くべき提案に対して、交通局の職員たちは、まずは犯罪を取り締まるべきだと猛反発したのだった。しかし、ガン局長は、落書き消しを徹底して行う方針を決め、地下鉄の車両基地では、交通局の職員によって6000もの車両一面に書かれた落書きを消してゆくという、途方もない作業が行われたのである。



そして、プロジェクト開始から5年後の1989年、ようやくすべての落書き消しが終了した。するとなんと、地下鉄内で増加する一方だった凶悪犯罪が減少し始めたのである。

実はケリング教授が落書きを消させたのは「破れ窓理論」という考え方であり、もし「建物の窓が割れたまま放置していると、ほかの窓も壊される」ように、軽微な犯罪を放置すると、その犯罪はエスカレートするという理論である。

そして教授は、第2弾として、「軽犯罪の取り締まりを強化する」よう指示した。凶悪犯罪ではなく、軽犯罪の取り締まりという対策に、再び周囲は反発したという。しかし、すぐに実行され、落書きを書く者、車内での喫煙、無賃乗車など今まで凶悪犯罪の陰に隠れていた軽犯罪を、強い姿勢で取り締まつていった。そして2年後、なんと、凶悪犯罪数も減少し始め、94年には約半分にまで減少。犯罪の温床と呼ばれたニューヨークの地下鉄は、落書き消しと軽犯罪の取り締まりによつて治安が回復していったのである。

そして1994年、ニューヨーク市長に就任したルドルフ・ジユリアーニ氏は、地下鉄で成果を上げた犯罪抑制対策を、ニューヨーク市警察に導入したのである。ニューヨークでは、落書きを消し、軽犯罪の取り締まりを続けた結果、やはり、地下鉄と同じように犯罪発生件数が急激に減少し、犯罪都市の汚名を払拭することに成功したのである。

さらに、ケリング教授によれば、犯罪を減少させるには警察だけでなく、行政や住民が道の掃除をする、他人に迷惑をかけていたら注意するといった協力が犯罪を防ぐ大きな力になるというのだ。

かつての犯罪都市ニューヨークは、ちよつとしたことを直すことで救われた。京都の街でも多くの市民が参加する清掃活動が行われている。あなたの周りの「ちよつとしたこと」で、何かが大きく変わるのだ。

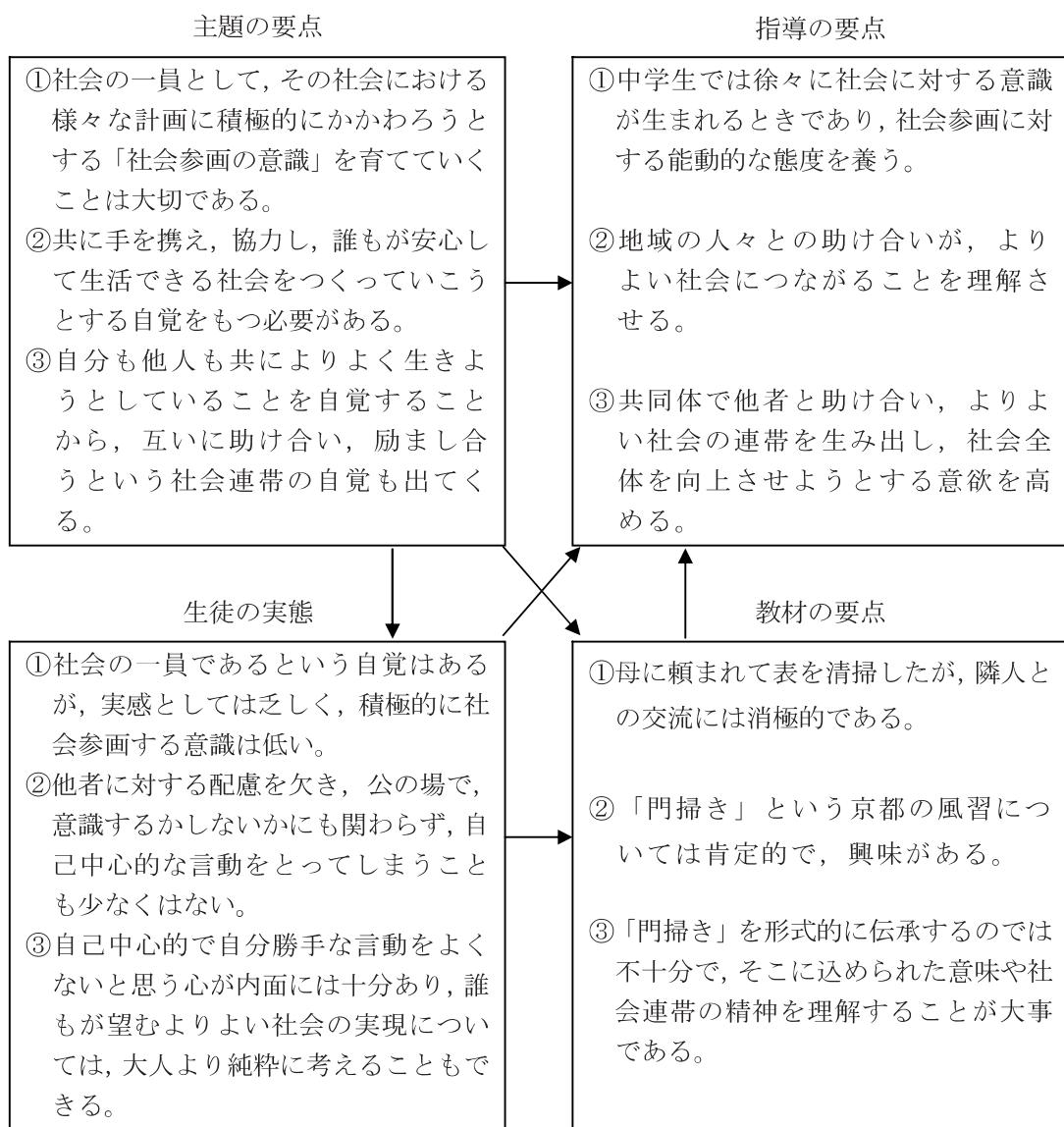


## 道徳學習指導案

1 主題名 社会連帯への自覚 [社会参画, 公共の精神 C-(12)]

2 教材名 門掃き

3 主題構成の観点



4 ねらい

しきたりとしての「門掃き」を通して、社会連帯や公徳心、その奥にある相互扶助や思いやりの心情を知ることにより、自らもその社会を構成する一員である自覚し、よりよい社会を生み出す主体者として行動しようとする意欲を養う。

## 5 指導過程

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	①京都の風習について考える。	○京都の風習やしきたりについて、どれだけ知っていますか。 ・門掃き　　・打ち水 ・お茶漬け（ぶぶづけ）	○活発に意見を言いやすい雰囲気を作る。
展開	②教材「門掃き（かどはき）」を読む。 ③「門掃き」というしきたりについて考える。 ④母親の「思い」について考え、グループワークを行い、意見交流をする。 ⑤「社会連帯」についての注意点を考える。	<p><b>【発問1】</b>  <b>「門掃き」というしきたりが生み出したものは何だったでしょうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街がきれいになる</li> <li>・近所の付き合い</li> <li>・気配り、目配り</li> <li>・感謝の心</li> <li>・街を愛する心</li> </ul> <p><b>【発問2・中心発問】</b>  <b>母親が門掃きから息子に伝えたいことは何だったのでしょうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の助け合い</li> <li>・高齢者への気配り</li> <li>・自立することの大しさ</li> <li>・依存することの恥ずかしさ</li> </ul> <p><b>【発問3】</b>  <b>「社会連帯」を考えるときに、心掛けることは何だと思いますか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・押し付けず、他人を助けるやり方</li> <li>・さりげない目配り、気配り</li> <li>・きちんと自分の責任を果たす</li> </ul>	○教師が範読する。  ○しきたりの中にねらいや思いがあることに気づかせる。  ○個人でワークシートに書き、その後にグループワークを行う。 ○グループ単位で活発に交流させたのち、できるだけ多くの生徒に発言させる。  ○「社会連帯」は他者との関わりが大きいことを気付かせる。
終末	⑥ワークシートに自分の考えをまとめること。	○この時間について、考えたことをワークシートにまとめましょう。	○回収して、学級通信でさらに交流を深める。

## 6 評価

- 「社会連帯」について、自分なりの立場から真剣に考えることができたか。（観察・発言）
- 他者の意見に耳を傾け、自分の道徳的価値について、交流・研鑽できたか。（ワークシート）
- 人間は共に寄り添い、助け合い、励まし合うことで生きていることを知り、また他者を思いやる支えを心掛けることが大事だと知ることができたか。（ワークシート）

## 『道徳の授業ワークシート』

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

1. 「門掃き」というしきたりが生み出したものは何だったでしょうか。

2. 母親が「門掃き」から息子に伝えたいことは何だったのでしょうか。

自分の意見	みんなの意見で印象に残った意見
-------	-----------------

3. 「社会連帯」を考えるときに、心掛けることは何だと思いますか。

4. 今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。

### ☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ← ふつう → まったく

教材はよかったです	5	4	3	2	1
共感・感動した	5	4	3	2	1
新たな発見があった	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができた	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1

## 門掃き

「けいすけ、表を掃いといてえな」

「えー。なんで僕が？こうたに頼んでよ」

「こうたは朝からサッカーの練習に行つてんねん。お母さん、手え放せへんさかい、頼むわな」母親に言われて、僕はしぶしぶソファーから立ち上がり、玄関に向かう。めんどくさそうな様子から察したのか、僕の背中に更に母の声が追っかけてきた。

「ちやんとお隣さんとの境も掃くんやで！挨拶もしてな！」

僕はホウキとちりとりを持って表に出た。少しまだ眠さが残っている頭を振ると、眼の隅にお隣の加藤さんが家の前を掃除しているのが見えた。

加藤さんは高齢の女性だが、昔からこの京都の町に住んでいて、まだまだ体は元気だ。「おはようさんどす」とにっこり笑つて挨拶された。僕は「…じゅも」とだけ小声で返事をした。

「さつさと終わらせよう・」そう思つて僕はバタバタと掃除を始める。せわしなくお隣さんとの境を掃き、家の前の掃除に取りかかった。とりあえず、大きなゴミさえ掃きさえすればいい。

でも家の前を掃いているときに、ふと加藤さんがうちとの境目を30cmほど越えて、掃いているのが目に入った。ざつざつと規則正しく、丁寧な手つきで。

京都には昔から「門掃き（かどはき）」といつて、自分の家の前の道幅半分と、家の幅にお隣の分1尺（約30cm）くらいだけをきれいにするしきたりがある。それぞれの家が責任を持つのと、責任が重なり合うところをほんの少しづつ助け合う。お互いが境目を掃除することで、よりきれいになる、というわけだ。

加藤さんも、まるで自分の家の掃除であるかのように、真心込めてうちとの境目を掃いてくれている。しかも決して30cmよりこちら

に入つて掃除をすることはない。いつたいこれはなんでなのだろうか。

すっかり目を奪われていた僕を尻目に、加藤さんは向かいの家との境目、道の半分ほどにさしかかった。「門掃き」のしきたりでは、これ以上掃いたりすることは強く戒められないと先生が言っていた。だから加藤さんも、そこで手を止めるのだろうと思つていた。

だが、不思議なことに、加藤さんはちょっとお向かいさんの家に視線を上げたあと、そのまま向かいの家の前まで掃除を続けた。ざつざつとその動きには何の迷いもない。姿勢よく掃き掃除をするその姿は、凜として、美しく見えた。

結局、加藤さんは二軒分の掃除を終え、家に戻つた。僕も掃除を終えて家に戻ると、母は用事を終えて、ひと段落ついた様子でくつろいでいた。僕は今日撃した「門掃き」を少し得意げに報告しながら、一つ、二つ、気になることを母にぶつけてみた。

「でも加藤さんはあれだけ丁寧にやつてくれるのに、30cmより中には入つてきはらへんねん。なんでやろ。親切心ついでにもうちよつとうちんちまで掃いてくれてもええのに。」

冗談めかして言う僕の顔を、母はじつと見つめた。軽い気持ちで言つたのだが、その真剣な表情に、僕は何とも居心地が悪くなる。母が口を開いた。

「あんたは、自分のことが自分で出来へんと思われたいんか？それは京都では相手に恥をかかすことになる。『侵さず、侵されず』。それが京都の親切心や。ひとのどこまで入り込むは、相手を一人前に扱つてへんことになるんやで」

思いもよらない強い口調に、僕は少し鼻白む。でも、と少し反抗心が持ち上がつた。

「でも、お向かいさんところは掃いてはつたよ。あれはなんで。」

そう聞く僕に、母はふっと表情を和らげる。

「あんたは知らへんにやな。お向かいさんはちょっと体を悪くして、先週から入院したはる。そんなどきは境目を越えて助けるのも『門掃き』や。『門掃き』は単なるしきたりやない。お互ひが境目を掃くことで関わり合いも生まれるし、困つたときも助け合える。目配り、気配りや。よう覚えときな。」

「門掃き」は京都のしきたりとは知っていたけど、そんな意味まで考えたことなかった。そんなことをぼんやり考えていると、あつと気がついた。母が掃除に出る直前の僕へかけた、あの言葉の本当の意味を。

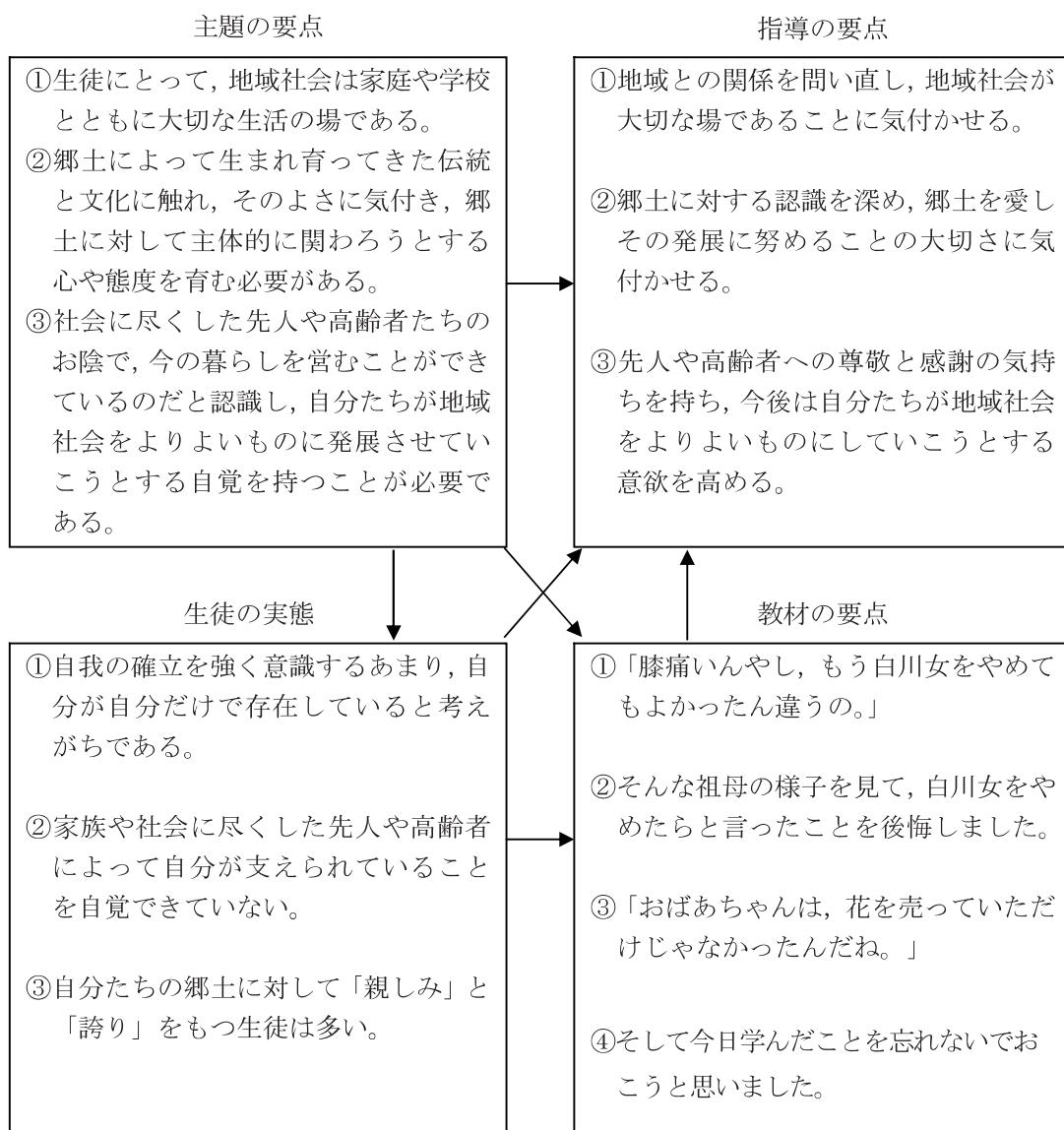
今日は何から今まで母に完敗だ。母はもう気分を変えて、鼻歌を歌いながら昼ごはんの準備に取り掛かっている。僕は、次の門掃きのときはいろんなことに気がつくようになろう、心にそう感じていた。

## 道徳學習指導案

1 主題名 郷土愛【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 C-(16)】

2 教材名 花 いらんかえ

3 主題構成の観点



4 ねらい

町の中に溶け込み、支え合いながら生きているおばあちゃんの姿を通して、地域との人間関係を問い合わせ、郷土に対する認識を深め、地域社会に尽くし、自己の人生を大切にして生きてきた高齢者への尊敬と感謝の気持ちを大切にしたいと思う道徳的心情を育てる。

## 5 指導過程

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	①白川女についての説明を聞く。	○本日のテーマは「人生」です。 白川女を知っていますか。（写真などの提示） 昔は、頭に花を乗せて売りに町へ出かけたものですが、戦後はリアカーに積んで売りに出かけたものです。そんな姿もめっきり見かけなくなりましたね。今日はそんな白川女のお話です。	○テーマはさらっと流す。 ○「白川女」については写真などで具体的なイメージをつかませてから資料に入るようする。
展開	②教材「花いらんかえ」を読む。  ③教材の内容を確認する。  ④おばあちゃんが、荷車を押して町へでかけていく思いを私がどう感じ取ったかを深く考える。	<p><b>【発問1】</b>  <b>白川女をやめたらいいのにと思った時の私の気持ちを考えてみよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝が悪いから大変</li> <li>・もう年だし</li> <li>・もう無理しなくとも…</li> </ul> <p><b>【発問2】</b>  <b>白川女をやめたらと言ったことを後悔した時の私の気持ちを考えてみよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが待ってくれている。</li> <li>・膝のことを気遣ってくれている。</li> </ul> <p><b>【発問3・中心発問】</b>  <b>おばあちゃんは、花と一緒に荷車に何をのせて、京の町へ出かけていると私は思ったのだろうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々のあたたかい思い</li> <li>・愛情、やさしさ、思いやり</li> <li>・地域の人々への気遣い</li> <li>・仕事ができる、気遣ってもらっている感謝</li> <li>・自分自身の元気の源</li> <li>・価値のあるふれあい</li> <li>・すてきな、美しい触れあい</li> <li>・みんなの幸せと自分の幸せ</li> <li>・町の人たちの笑顔</li> <li>・京の町、そのものすべて</li> </ul>	○教師が範読する。  ○私は、おばあちゃんが花を売りにいく行為を単なる商売と考えている。よって身体が悪いし、年なのだからやめればいいのと考えていることを押さえる。  ○町の方々に愛されていることに気づき、おばあちゃんにとって生きがいのようなものかなと考え始めていることを押さえる。  ○ここで、花売りが、おばあちゃんにとって人生そのものであって、それは、花を売るを通して、町の人々の暮らしと密接に関わり合っていることを深く考えさせていきたい。
終末	⑤私が学んだことを考え、感想文を書く。	<p><b>【発問4】</b>  <b>私はどんなことを学んだのでしょうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあちゃんは、町への思いでいっぱいなんだ。</li> <li>・町がおばあちゃんを支えているんだ。</li> <li>・いつまでもこんな町であってほしい。</li> </ul> <p>○私が感じたおばあちゃんの「思い」を考えて、感想文を書いて下さい。</p>	○おばあちゃんの郷土に対する思い、それに深く触れることができた私の思いを感じさせたい。単に郷土を大切にするということではなく、人生と深く関わり合っているものだとうことを感じ取らせることが望ましい。

## 6 評価

- 郷土愛について、その意義について深く考えることができたか。（観察・発言）
- 郷土愛について、自分自身の問題ととらえ、考えることができたか。（発言・ワークシート）
- 自分自身の生き方について影響を与えることができたか。（ワークシート）

## 『道徳の授業ワークシート』

(　　) 年 (　　) 組 (　　) 番 氏名 (　　)

1. おばあちゃんは、荷車に花と一緒に何を載せて、京の町へ出かけていると私は思ったのだろうか。

2. 私はどんなことを学んだのでしょうか。

3. 今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。

### ☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ← ふつう → まったく

教材はよかったです	5	4	3	2	1
共感・感動した	5	4	3	2	1
新たな発見があった	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができた	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1

# 花 いらんかえ

著 森上 慎治

今から四十年余り前には、まだ京都の町の細い路地に白川女のこんな声が響いていました。  
紺木綿の着物に紺の手甲、白の脚絆、花柄の赤いたすき、紺緋の前掛け、それに白い手拭いの端を  
そつと赤に染めたのを姉さんかぶりにした白川女は、大原女、畠の姥と並んで、京都の働く女性の  
代表でした。

私の祖母も白川女のひとりでした。膝を痛めてしばらく休んでいた祖母が、また花売りに出ることに  
なり、中学生だった私は、母から頼まれて手伝いに行くことにしました。

北白川の家では、祖母はもう花を入れた籠を荷車に積んで待っていました。  
荷車を押して町の外れにさしかかると、白川街道をふさぐように立つ大きなお地蔵さんがありました。  
祖母は、籠から花を一束取り出して供えました。

「このお地蔵さんは白川女を守ってくださっているのやで。」

ひとり言のようにつぶやきながら、膝をかばうようにしてしゃがみました。

「おばあちゃん、足はもう大丈夫なん。膝痛いんやし、もう白川女をやめてもよかつたんと違うの。」

「大丈夫やて、待つてくれる人がいるからな。」

今出川通りから御所に向かう道を祖母はずつと荷車を引いて行きます。何か手伝わないといけないと思つた私は、代わろうかと言いました。祖母は、私の顔をちらつと見て、

「引いてみるか」と、心張り棒を渡しました。代わったとたん、たくさんの花を積んだ荷車がぐらつと揺れました。車輪が一つしか無くて、心張り棒をしっかりと握つていてもふらふらします。前にも後ろにも倒れそうになつて、私は荷車に踊らされながら歩きました。そのたびに祖母に荷物を支えてもらいました。私よりよっぽど小柄な祖母が、バランスよく荷車を引いていたのには、やはり年季が入つていると感心しました。



ようやく室町通りに入つて、お得意さんの家の前で荷車を止め、花売りが始まりました。

「花いらんかえー」

祖母のいい声が路地裏に響くと、格子戸ががらっと開きます。

「いやあ、久しぶり。元気になつたんやねえ。お仏花と榊くださいな。」

「おおきに、待つててくれてありがとう。おばあちゃんが亡くなつてもう五年になるねえ。」

「よう覚えてくれて、ありがとう。」

こんな調子で、あつちの家でもこつちの家でも、いろんな話が飛び交います。祖母も生き生きしています。時々留守の家があると、祖母は、

「舞ちゃん、このお花、玄関先のバケツに入れといて」と、言います。

「お代はどうするの。お花を盗られたりしないの。」

「舞ちゃん、心配いらんよ。お代は、また今度もううし、花盗つたら罰当たるがな。」

と、平氣です。

少し疲れてきたなあと思つていたら、タイミングよく、

「お茶飲んでいきや。」と言つて、お茶を用意してくれる家があります。時にははらはらするくらい長い時間座り込んでおしゃべりをします。また、

「遅いなあ、あんたが来いひんかつたら買い物も行けへんやんか。」

と、ちょっときついことを言いながらも、笑つて迎えてくれる人がいます。

「もうよくなつたの。大事にしいや。」と、祖母の足の具合も気にかけてくれます。その人も祖母と同じくらいの歳でした。その家を出ると、祖母はつぶやきました。

「ほんまに、ありがたいことや。」

そんな祖母の様子を見て、白川女をやめたらと言つたことを後悔しました。しばらく歩いて、一軒の家の前で荷車を止めた祖母が、菊

「舞ちゃん、このお花、こここの家に持つていつておくれな。おばあちゃんもすぐ後から行くから」

祖母に言われて花を持ってきたというと、田川のおばあさんは、驚いたように、座布団を持つてきて、ここにかけてと言いました。

私が戸惑つていると、祖母が入つてきました。祖母を見るなり、田川のおばあさんは、

「おじいさんは、何で私を置いて、はよ死んだんやろ。」と、涙ぐみます。

「そうやね。早すぎたね。田川さんは人の気持ちのよくわかる人やつたしね。あんたも寂しいことやろね。でもあんたに看取られてきつと幸せやつたんよ。」

「そうかね。そうかね。」と、田川さんは、自分を納得させるようになぞいていました。田川さんは次から次へとおじいさんの思い出話を祖母に話しました。うんうんと相槌を打ちながら祖母はずつと田川さんの手を自分の両手で包み込んでいました。しばらく話して元気になつた田川さんは、

「また来てや。」と、玄関で見送つてくれました。

祖母は黙つて荷車を引いて歩き出しました。私は祖母のそばにそつと寄つて言いました。

「おばあちゃんは花を売つていただけじゃなかつたんだね。」

祖母は、私の目をじつと見て、

「あんたもそんなことがわかるようになつたんやな。」と、うれしそうに言いました。又格子戸がガラツとあいて、誰かが顔をだすような京都の路地を、私は祖母に寄り添つて歩きました。

帰りのきつい上り坂を一時間ほどいくと、やつとあのお地蔵さんが見えてきました。

残しておいた菊を二本取り出してお地蔵さんに供えました。祖母はお地蔵さんに向かつて手を合わせています。私も並んで、優しく笑うお地蔵さんにそつと手をあわせました。

そして今日学んだことを忘れないでおこうと思いました。

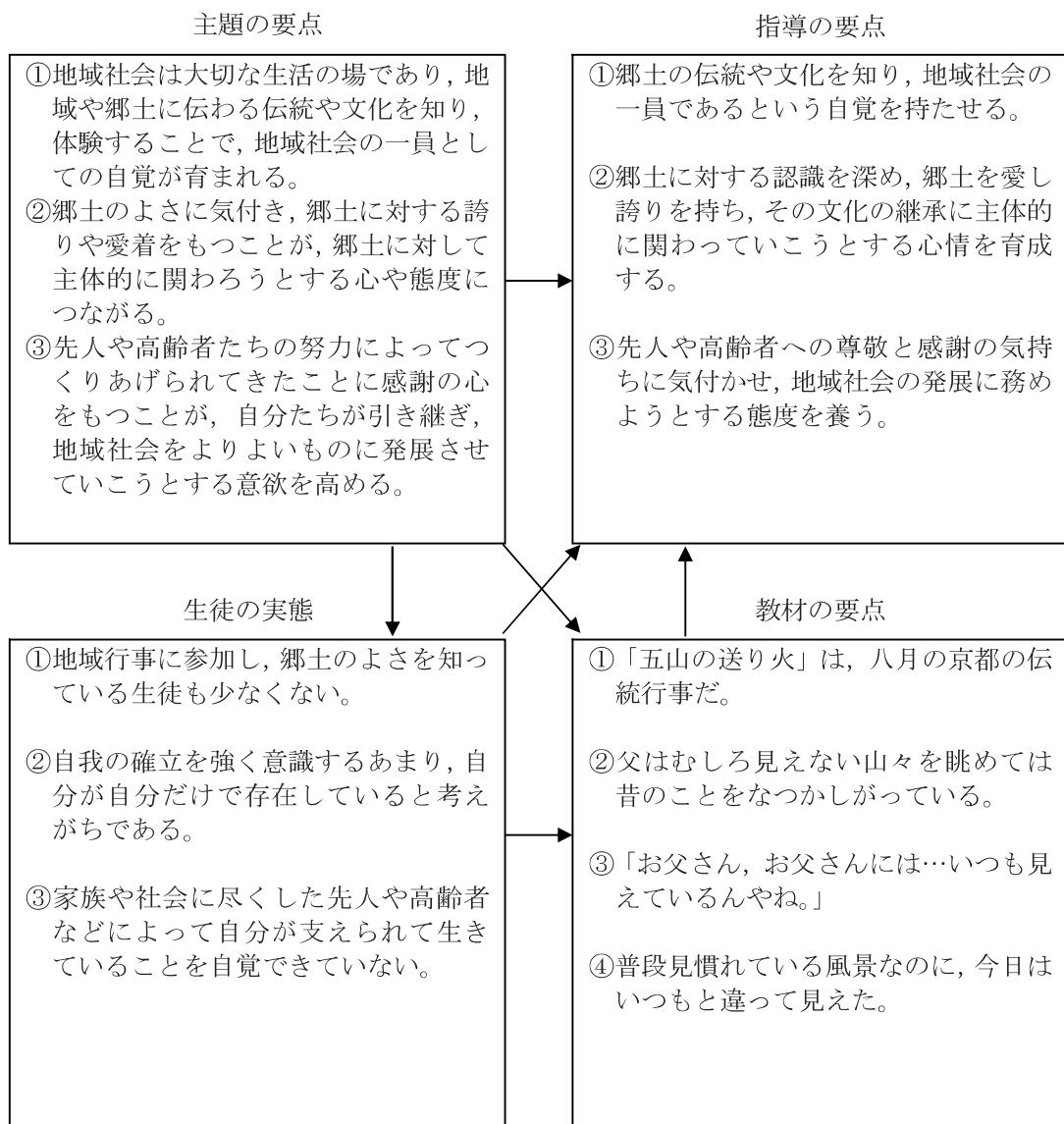


## 道徳學習指導案

1 主題名 郷土愛 [郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 C-(16)]

2 教材名 父の大文字

3 主題構成の観点



4 ねらい

屋上からみる大文字に思いを寄せる父の姿を通して、郷土に対する認識を深め、地域の一員として郷土を愛し、発展に努めようとする道徳的な心情を培う。

## 5 指導過程

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	①「大文字」について考える。 ②教材「父の大文字」を読む。 ③資料を確認する。 ④見えない大文字の話を聞く、僕の気持ちを考える。 ⑤父の気持ちを確認する。	○大文字って知っていますか。 今日は、大文字を見に行く父と息子の二人のお話です。	○いわゆる京都の「五山の送り火」である。簡単に説明する。 ○教師が範読する。
展開	⑥僕は、どのような父の「思い」に気がついたのかを考える。 ⑦風景がちがってみえる。	父 … 昔から京都に住んでいる。 やさしそうなお父さん。 ぼく … ふつうの中学生。 2人で大文字を小学校の屋上で見る。  見えない北東の方角を指して話す父 <b>【発問 1】</b> <b>どんな思いで、ぼくは父の話を聞いていたのだろうか。</b> •またいつもの話。 •見えないのに面白くない。 •他に行けば全部見えるのに…  ○父の「思い」が伺える言葉を探してみよう。 •「ここがいい」 •「おまえらと来たい」 •「見えなくなっても大切にしたい」  ○父は、どんな思いで「舟形」をなぞったのだろうか。 「お父さん、お父さんには…いつも見えていたんだね。」  <b>【発問 2・中心発問】</b> <b>僕は、父のどんな思いをみたのだろうか。</b> •見えない大文字をなつかしむ思い。 •昔の町をなつかしむ思い。 •この町の将来をさびしく思う気持ち。 •変わっていってもこの町を愛する思い。 •息子にもこの町を愛してほしいと願う思い。  <b>【発問 3】</b> <b>風景がちがって見えたのはどうしてだろうか。</b> •改めて町を自分の町として見直したから。 •父が愛するこの町をしっかりみようと思ったから。	○「やっぱり…」から過去に来たことがあること、すべての大文字が見えないことをすでに知っていることを押さえる。 ○ぼくにとっては、いつもの話だろう。見えないのに、それを話し続ける父の思いに不思議がっているのではないだろうか。  ○父の思いに触れる場面である。  ○ここで、将来「舟形」も見えなくなるのだろうかと、自分にとっても大文字を考え始める。そうすることで父の思いを深く考えていく場面である。  ○父の思いを深く考えることで、強い郷土への愛情を抱く父の気持ちを想起させたい。その愛情が深いことを気づいたからこそ、父に問い合わせられたとき、照れくさくなったりのだろう。  ○父の思いを知ることでぼくの意識が変わっている。父の愛する町を自分も愛していくのかなという思いが生まれているのではないかだろうか。
終末	⑧ワークシートに自分の考えをまとめる。	○この時間について、考えたことをワークシートに書きましょう。	○授業の振り返りも記入させる。

## 6 評価

- 郷土愛について、その意義について深く考えることができたか。（観察・発言）
- 郷土愛について、自分自身の問題ととらえ、考えることができたか。（発言・ワークシート）
- 自分自身の生き方について影響を与えることができたか。（ワークシート）

## 『道徳の授業ワークシート』

(　　) 年 (　　) 組 (　　) 番 氏名 (　　)

1. 僕は、父のどんな思いを見たのだろうか。

2. 風景が違って見えたのはどうしてだろうか。

3. 今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。

### ☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ← ふつう → まったく

教材はよかったです	5	4	3	2	1
共感・感動した	5	4	3	2	1
新たな発見があった	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができた	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1

# 父の大文字

「大文字を見に行こう」

父は、家族に切り出した。大文字の送り火は京都の行事である。全国から大勢の人たちが集まつてきて町はごったがえす。

「どこから見るの。車で行くの？」

「いいや、小学校の屋上からや」

「やっぱり、小学校の屋上…」

小学校とは、父が通っていた小学校で、今は廃校になっている。祖父もその学校の卒業生だ。校舎や運動場は、今では地域の人々の活動の場として活用され、毎年この日だけ、校舎の屋上に入ることが許される。

夕食をすませ、家族そろつて小学校へ向かつた。校舎の前では、地元の消防団の人々が、時々、時計を見ながら、準備をすすめていた。

僕たちは、校舎の中に入った。階段は、ぼんやりと薄暗い。妹は、母と一緒にどんどん先に上つていく。僕は、父に合わせながらゆっくり階段を上つた。

「この階段をお父さんも、おじいさんも毎日上り下りしたんやで」

「この手すりの具合も、窓も、昔のままやな…」

父はなつかしそうに毎年同じようなことを僕に言う。屋上に上がつてみると、ところどころ雑草が生えていて、

草のツンとしたにおいがただよう。校舎の東側は、消防団の人が立つていて、入らないように言われた。

「今年も、ダメか。」

父はそうつぶやきながら、校舎の西側に進んだ。東側からしか「大文字」は見えないらしい。だから僕は、小学校のころから「大文字」の点火の瞬間を見たことがない。父はこうなることもわかっているはずなのに、それでも毎年この屋上にこようと言う。



「五山の送り火」は、八月の京都の伝統行事だ。京都の人は、「送り火」とはあまり言わず、「大文字」と言うことが多い。8時にまず、東側の「大」の文字から点火がはじまる。そして、「妙法」、「舟形」「左大文字」「鳥居形」と順番で山々に点火され、京都の夜を照らしていくのである。

8時になり、送り火が始まつた。父は、東の方を指さして話し始めた。

「校舎の東側のあのへんに立つとな、大文字がよう見えたんやで。よくおまえのおじいさんとな、一緒に見に来たもんや。その頃はな、高い建物も少なくて、「大」の字がくつきり見えたんや。別にどこにもいかんでもな、ここからしつかり見えたんや。」

父は、次に何も見えない北東の方角を指さしながら話しを続けた。

「あの辺に、「妙」と「法」が見えるんや。おじいさんの小さい頃は全部しつかり見えたらしい。お父さんの小さい頃は何とか字やなとはわかるぐらいやつた。今では、何か薄明るくなつてているだけで何にも見えないけどな……」

やがて、北の方では別の山の点火が始まつた。

「お父さん、「舟形」の火がつき始めたよ。……やつぱりすごいね。いつきに舟の形になつてきた。」

「そうやな、「舟形」は今でもよう見えるな」

そうやつて次々に送り火はすすんでいった。父はよく見える山々の送り火よりも、むしろ見えない山々眺めては昔のこととなつかしがつてゐる。

「お父さん、そんなに見たいんやつたら、他のところへ見に行つたらええやんか。」

僕は毎年思つてゐる事を思い切つて父に言つてみた。父は、夜空を見ながら、僕に話し始めた。

「確かにそうかもしだへんな。でもな、見えなくともな、ここへ来るのがなんとなくいいんや。それもな、おまえらと一緒に來るのがいいんや。そうやつてお父さんも、おまえのおじいさんに連れてきてもらつたんや。見える文字は、「左大文字」と「舟形」だけに減つてしまつたけど、毎年ここに来てな、大文字と一緒に自分の町を眺めるとほつとするもんがあるんや。」

僕は、高い建物がどんどん増えていく自分の町を見渡した。

「お父さん、もしかしたら、僕が大人になつたらもつと見えなくなるかもしだへんな。」

「そうやなあ、 そうかもしけへんな。」

父は、ぼんやり薄明るく見える東の方を見ながら、少しさびしそうにうなづいた。

「でもな、お父さんは、ここから何も見えなくなつても、ここから見えた大文字を大切にしたいんや。」

僕は、北の夜空に煌々と燃える「舟形」を眺めながら、右手でその形を何度もかなぞつてみた。そして目を閉じた。八月の京都は風が生ぬるく、まだまだ蒸し暑い。僕は、ゆっくり目を開けて、父に話しかけた。

「お父さん、お父さんには…いつも見えてるんやね。」

「んー。見えてるで。おまえも見えてんのか。」

父はやさしくほほえみながら、僕を見て言つた。僕は、なんだかてれくさくなつて何も言えなくなつた。

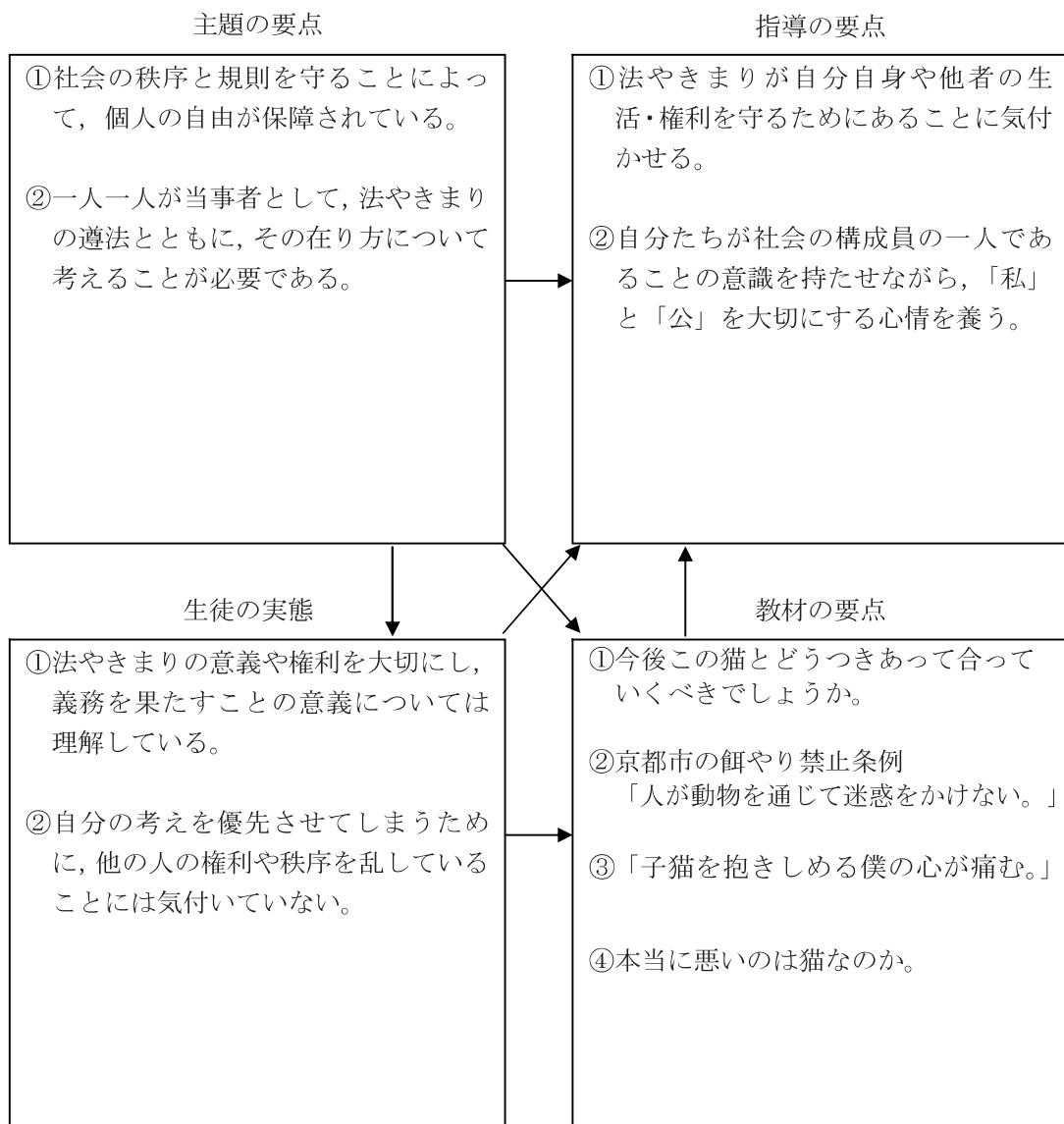
校舎を降り、四人で夜の道を歩いた。昔から変わらないような木造の間口のせまい家、最近新しく建てられた大きな窓のある家、普段見慣れている風景なのに、今日はいつもと違つて見えた。

## 道徳學習指導案

1 主題名 公徳心 [遵法精神, 公徳心 C-(10)]

2 教材名 動物と共に

3 主題構成の観点



4 ねらい

きまりを守ることが、社会の秩序や規律を守っていることに気付き、社会生活において互いに迷惑をかけないような行動をとろうとする態度を育てる。

## 5 指導過程

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	①野良猫について考える。	○身の回りに「野良猫」はいますか。 ○今日は、「飼い主のいない猫」について考えてみたいと思います。	○身近な場所を思いうかべながら、具体的に生活に即して考えさせたい。
展開	②教材「子連れの野良猫」を読む。 ③女性からの便りについて意見を交流する。 ④京都市餌やり禁止条例について知る。 ⑤条例が作られた理由を考える。 ⑥教材「地域の公園にすること」を読む ⑦僕の「心の痛み」について考える。	<p><b>【発問 1】</b>  <b>この女性の便りをどう思いますか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・猫がかわいそう。</li> <li>・餌をやるのは悪いことではない。</li> <li>・猫が住みつくのもしかたない。</li> <li>・最初から餌をやらなければよかったです。</li> <li>・さみしさから無責任な行動をとってしまった。</li> </ul> <p>○京都市では現在、野良猫など、飼い主がいない動物への不適切な給餌で、住民の生活環境に支障が生じた場合、餌をやった人に対して勧告・命令を行い、命令違反の場合は5万円以下の過料を科されるそうです。</p> <p><b>【発問 2】</b>  <b>なぜ条例が制定されたのでしょうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野良猫を増やさないため。</li> <li>・住民のトラブルを解決するため。</li> </ul> <p><b>【発問 3】</b>  <b>「子猫を抱きしめる僕の心が痛む」とあります が、ぼくの心が痛むのはなぜですか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命生きている猫を大切にしたい。</li> <li>・猫を守ってやりたい気持ち。</li> <li>・どうやって共存していくかを悩んでいる。</li> </ul>	○教師が範読する  ○生徒から多少批判的な意見が多くてもかまわない。 ○「この後、この女性はどうしたと思いますか。」と聞いてもかまわない。  ○パワーポイントやカード等を利用して、視覚に訴え印象付けたい。 ○2015年10月1日から  ○教師が範読する。  ○表面的には猫が原因で起こっていることに思えるが、実際には人の手で起こってしまった問題であることに気付かせたい。
終末	⑧今日の感想を書く。	○ルールが定められるのには理由があります。野良猫と共に暮らしていくために、どういう行動をしていけばいいと思いますかお互いに気持ち良く暮らしていくために必要なことは何だと思いますか。 では、今日の感想を書いてください。	○きまりを守ることが、社会の秩序や規律を守っていることに気づき、社会生活において互いに迷惑をかけないような行動をとろうとする態度を育てる。

## 6 評価

- 郷土愛について、その意義について深く考えることができたか。（観察・発言）
- 郷土愛について、自分自身の問題ととらえ、考えることができたか。（発言・ワークシート）
- 自分自身の生き方について影響を与えることができたか。（ワークシート）

## 『道徳の授業ワークシート』

(　　) 年 (　　) 組 (　　) 番 氏名 (　　)

1. この女性の便りをどう思いますか。

2. 「子猫を抱きしめる僕の心が痛む」とありますが、僕の心が痛むのはなぜですか。

3. 今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。

### ☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ← ふつう → まったく

教材はよかったです	5	4	3	2	1
共感・感動した	5	4	3	2	1
新たな発見があった	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができた	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1

# 動物と共に

## 資料①

ある雑誌で「子連れの野良猫」というタイトルのついたコラムを見つけた。そこには、野良猫との接し方を知りたいという、女性からのお便りが紹介されていた。

十年以上も飼っていた我が家の猫が、先月老衰で亡くなり、寂しい毎日を過ごしていた時のことです。裏庭で猫の鳴き声が聞こえ、窓から外を見てみると、痩せた猫が家を伺っているのを見つけました。

首輪も付けていない少し汚れた猫なので野良猫だと思いました。私は、ほおっておこうと思いましたが、亡くなつた我が家の猫を思い出し、残つていたキャットフードを処分する思いで、庭に皿に入れて置いておきました。窓からそつとのぞいていると、その猫は警戒しながらも皿に近づき、美味しそうにキャットフードを食べてくれました。それから私は、たびたびその猫に餌を与えるようになつてしまつたのです。

ところが、ある日の夕方、庭にある物置に園芸用具を取りに行くと、物置の奥の方で物音がしました。気になって見てみると、あの野良猫が子猫を四匹もつれて物置に入り込んでいたのです。このまま物置に住みつかれても困ります。

私は、今後この猫とどうつきあつて合つていくべきでしょうか。

## 地域の公園に思うこと

僕の家の近所にはちょっとした広場のある公園がある。小さい頃はブランコやすべり台などの遊具で遊ぶのが樂しみだつたし、小学校の頃は友達と一緒にサッカーやドッヂボールをした。中学生になつても、ベンチで友達とたわいもない話をしたり、時には部活の仲間と熱く語り合つたりと、結構お世話になつてゐる愛着のある公園である。

毎朝のように地域の方が落ち葉やゴミを集めてくれている。午前中は地域の方が集まつてグランドゴルフを楽しんでおられるが、その前にと、掃除をしてくださつてゐるのだろう。学校に行く途中この公園の前を通るが、毎朝きれいに掃除してくださつてゐるのにも関わらず、お菓子の袋やペットボトル、夏には使い終わつた後の花火が落ちてゐることもある。それを文句も言わず、腰を屈めて拾いながら掃除をしてくれている姿をみると、申し訳ない気持ちになる。公園にはゴミが落ちていることもあって、カラスが集まつてくる。猫が集まつてきて、集会を開いていることもある。時には、誰かが置いたのであらう発泡スチロール製のトレーに、猫のエサが置いてある時には、辺りに食べかすが散らかり、ハトやカラスがたかっていることもあつた。なんてマナーの悪いことだらうと腹が立つたこともあつた。そう思つていた。

京都市では2015年に野良猫などへの餌やりを禁止する条例が施行された。これまでも住民から「エサ目当てに集まる猫の鳴き声や臭い」についての苦情が寄せられていたが、条例が制定されたことにより野良猫など、飼い主がいない動物への不適切な給餌（きゅうじ）で、住民の生活環境に支障が生じた場合は、餌をやつた人に対して勧告・命令を行い、命令違反の場合は5万円以下の過料を科されることになつた。

「人が動物を通じて他人に迷惑をかけない」という考え方に基づき、これまで人と猫が共生できる「まちねこ活動支援事業」として、飼い主のいない猫に対しても無責任な餌やり行為の防止を訴えたり、飼い主のいない猫を無償で避妊去勢手術を行うことで繁殖を防ぐこ

とに取り組んできたそうだ。これまでもふん尿の問題がトラブルの原因になっていたのだ。その解決のために、社会的な制裁も加えることで野良猫をなくすことを目標している。たしかにうちの公園でも、砂場に猫の粪があるので見つけて遊べなくなつたことを覚えてい る。

京都市には、古くから門掃きなどのまちづくりの伝統がある。近年京都が国内外からの注目を集め、伏見稻荷神社や金閣寺、清水寺などの観光地だけでなく、街中にも観光客や修学旅行生も多くなっている。きれいなまち京都を多くの人に見てもらいたい気持ちもある。しかしその一方で、きれいなまちづくりのために猫たちへの餌やりを禁止することで、これまで京都のまちで暮らしてきた猫達は今後どうやって生きていくのだろう。猫たちの命はどうなるのだろう。食料にありつけず、弱って死にそうになつてている猫を見殺しにすることにはならないのだろうか。

\*「（本当に悪いのは猫なんだろうか）」

野良猫の新聞記事を読んだ時、僕の頭の中にはこの夏のワンシーンがよみがえってきた。網がかけられた買い物かごの中に、生後間もない子猫が入っていたのだ。見つけたときには弱々しくかすかな鳴き声を上げるだけで、もう身動きができない状態だった。ドキッとした。「どうしよう。大変なことが起きている。」そう思った。一刻も早く、この子猫をなんとかしないと死んでしまう・・・。一刻も早く病院に連れていかないと・・・。でも、家に連れて帰つたら怒られるだろうな・・・。家にはもうすでに先住猫がいるし。うちで飼うこととはできないし・・・。一体誰がそんなことをしたのだろう。いろいろな思いが駆けめぐり、感情が高ぶる。とにかくこのぐつたりとした子猫をほつておくことはできなかつた。家に連れて帰つた時にはもう、衰弱して鳴くこともできない状態だつた。案の定、「なんで連れて帰つてきたの」と怒る母に、一生のお願いだからと頼み込んで、すぐ病院に連れて行つた。

しかしこの後子猫をどうするのか、議論になつた。いろんな事情で、母猫と離れたのかもしれないし、もう一度公園に戻すという案も出たが、新たな野良猫を作つてしまふ可能性もある。保健所に連れて行くのも、引き取り手が見つからず、殺処分になつたらどうしようと思うと、怖くてできなかつた。母も猫好きなので、僕の気持ちはわかつてくれたのか、飼ってくれる人が見つかるまでの間という約束

で、家で預かることになった。ほっとした。でも条件として情が移るといけないから、絶対に名前を付けないことも約束した。少しづつ元気になっていく子猫を見るのはうれしかった。夏休みが終わって、学校が始まても、走って家に帰る日が続いた。

その後1ヶ月。なかなかミルクも飲めない状態が続いたが、すっかり元気になって走り回り、壁を引っかいたり、足や手を甘噛みしてきたりと、いたずらもするようになつた。猫を飼ってくれないか方々に聞いてまわつたが、残念ながら飼い手は見つからなかつた。元々猫好きだった母も愛着がわいてきたのか、結局うちで飼うことを許可してくれた。しかし、今でも具合が悪くなつて病院に連れていくこともよくある。

野良猫とどうつきあつていくのか。作業の手を止めて、笑顔で僕に声をかけてくださる地域の方の顔。公園で遊ぶ小さい子ども達の笑い声。今ではつきりと覚えている、手のひらに伝わってくる、子猫の、小さいけれど確かにぬくもり。みんなこの地域で共に暮らしている。いろんなことが頭の中をぐるぐる駆けめぐり、猫を抱きしめる僕の心が痛む。

## きれいなまちをつくろう

私がこのあいだ、じどう公えんのすなばであそんでいたら、コロコロと犬のふんができました。

「犬はすきだけど、こんなきたないことはかなわんわ。もうこりごりだ」といつてすぐ家にかえりました。

また、ちかくのみようほういんへさんぽにいって、きれいなしばふにすわろうとしたときも、犬のふんがあつたのでとてもいやなきちになりました。

「どんなにりっぱな犬をつれてあるいても、その犬にどこでもかまわず大べんをさせたり、あとしまつもしないのなら、すこしもじまんにならないね」

と、おかあさんもいわれました。でも、となりのおばさんはちがいます。まいあさ、クロをさんぽにつれていくとき、わすれずにかみぶくろと、火ばしをもつてでかけるのです。私はふしぎにおもつておばさんにたずねました。

「クロがしづかで大べんをするから、ひろってかえるのですよ」

と、にこにこしていわれました。そうや、みんながこんなふうにしてくれたら、すなばもあんしんしてあそべるし、しばふも、みちばたもきれいでいいのになあ、と私はおもいました。

おかあさんはいつでも、「人のみていないときでも、あとしまつをきちんとしなさいよ」また、「じぶんのつづこうがよくても、それがみんなのめいわくにならないことなどかんがえてみてから、じぶんのすきなようにしなさいね」といいます。

だから、みんなとなりのおばさんのようなきもちをもちよつてこそ、きれいなまちができると、私はおもいます。

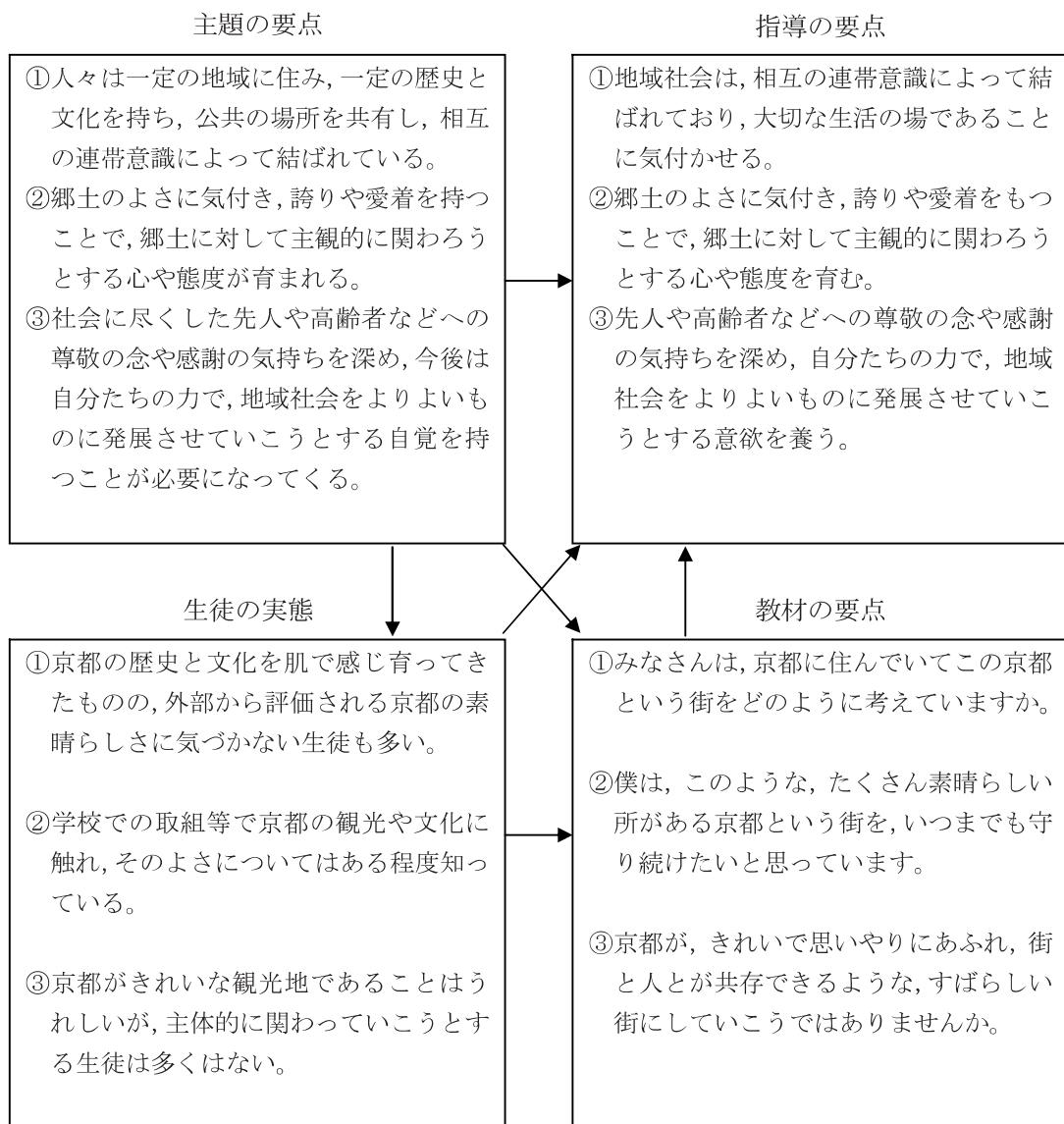
(小学生の作文)

## 道徳學習指導案

1 主題名 郷土愛 [郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 C-(10)]

2 教材名 京都に住んで

3 主題構成の観点



4 ねらい

京都の観光マナーについて考えることで、郷土を愛する心情を豊かにするとともに、郷土に対して主体的に関わり、よりよいものに発展させていくこうとする意欲を育てる。

## 5 指導過程

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	①京都市が世界で最も魅力的な観光都市に選ばれたことについて知る。 ②祇園祭の後のゴミ問題について知る。	○京都市は2015年に2年連続ベストシティランキング世界1位に選ばれています。 ○ランキングされた他の都市も見てみましょう。 ○この写真は、祇園祭の後のゴミ問題のものです。たくさんの観光客でにぎわう裏には、大量に出されたゴミで嫌な思いをする人もいます。	○観光地としての評価の高さについて、誇りがもてるようとする。 ○ランキングされている他国都市についての写真を用意する。
展開	③教材「京都に住んで」を読む。 ④筆者が京都によせる気持ちについて考える。  ⑤京都が自慢できることを考える。  ⑥京都をよりよくするため、自分自身がどのように関わることができなのかを考え、交流する。	<b>【発問1】</b> <b>筆者にとって、京都という街はどんなところか。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神社やお寺などの文化財がたくさんある。</li> <li>・自然がうまく調和している。</li> <li>・古さと新しさがベストマッチしている。</li> <li>・いつまでも守り続けたい。</li> </ul> <b>【発問2】</b> <b>郷土であるこの京都の自慢をして下さい。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清水寺や銀閣寺などの古いお寺が残っている。</li> <li>・桜や紅葉の名勝が沢山ある。</li> <li>・京都大学などの大学が多い。</li> <li>・日本の歴史が詰まっている。</li> <li>・祇園祭などの有名な祭りが多い</li> </ul> <b>【発問3・中心発問】</b> <b>京都をよりよくするために、どのようなことが考えられますか。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街を綺麗にすること</li> <li>・観光客に親切にすること</li> <li>・古い物を大切に使うこと</li> <li>・文化を守ろうとする心をもつこと</li> <li>・京都の素晴らしさをみんなが知ること</li> </ul>	○教師が範読する。  ○資料を読む際に、資料について教師が予備知識を解説し、生徒に共通認識を持たせる。  ○外国人に話しかけるなどの場面設定を考え、ロールプレイングを用いることも有効である。  ○個人の意見を深めるために、小集団形式を使って話し合いをさせるとよい。
終末	⑦ワークシートに感想を書く。	○この時間に考えたこと、学んだことをまとめてみよう。	○ワークシートに記入させ、数名の感想を発表し、共有する。

## 6 評価

- 授業に積極的に参加することができたか（観察・発言）
- 郷土愛について、その意義について深く考えることができたか。（発言・ワークシート）
- 郷土に対して主観的に関わり、よりよいものに発展させていくこうとする意欲が持てたか。（ワークシート）

## 『道徳の授業ワークシート』

(　　) 年 (　　) 組 (　　) 番 氏名 (　　)

1. 筆者にとって、京都という街はどんなところか。

2. 郷土であるこの京都を自慢して下さい。

3. 京都をよりよくするために、どのようなことが考えられますか。

4. 今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。

### ☆今日の道徳を振り返って☆

たいへん ← ふつう → まったく

教材はよかったです	5	4	3	2	1
共感・感動した	5	4	3	2	1
新たな発見があった	5	4	3	2	1
自分を振り返り、考えることができた	5	4	3	2	1
全体	5	4	3	2	1

## 京都に住んで…

東京から京都にやつて来てから早2年、一日一日が早く過ぎる今日この頃、ぼくは今、若王寺神社という神社に住んでいます。この神社は哲学の道に近く、今のような秋のシーズンにはたくさんの観光客がやつてきます。また、神社の中では正月前でもあるため、中で働く宮司さん達は社務をこなしながらしめ縄を作るといった忙しい毎日を過ごされています。

中学1年の10月に、父の転勤がきっかけで、父の実家であるこの神社に住むこととなり、現在では東京とは違った新しい環境に、やつとなじむことができるようになりました。そんな僕は、家の手伝いとして、境内の掃除が多く、落ち葉やゴミを集めて拾っています。

境内の掃除をする中で、集めたゴミを見てみると、お菓子の袋や空き缶などが多く含まれていることに気付きました。おそらくここを訪れた観光客が捨てていったものだと思うのですが、どうしてこのような事をしていくのでしょうか。

食べたり飲んだりしてできたゴミは、自分で持つて帰るのがマナーではないのでしょうか。そんなゴミを拾っている僕は、正直本当にいやになってしまいます。

それから、哲学の道には公衆トイレがありません。そのために近くにあるこの神社のトイレを借りにくる観光客が結構います。「すいません、トイレを貸して下さい。」と言つてトイレを借りに来られる方もいるのですが、中には何も言わずにズカズカと社務所の中まで入つて来る人もいるのです。このトイレは社務所の人や僕の家族が使っているものですが、「そこに行けばトイレがある。」という話が広まってしまったようで、勝手に使いに来る人が後を絶たないようになっています。

僕はこのような人達を見て、とても失礼な事だと思います。  
僕は、この2つの事から「マナー」について考えました。

「マナー」とは、相手を不快にさせないこと。相手を気持ち良くさせる行動をする事です。そのためには、相手の立場と気持ちを考えて行動をしなければなりません。自分の行動が相手にどのように思われるだろうとよく考えることが大切なのだと思います。

みなさんは、京都に住んでいてこの京都という街をどのように考えていますか。

京都で生まれ育った人は、あまり何も考えないのかも知れませんが、僕のような他の街で生まれ、京都に移ってきた者にとっては、ど

ても住みやすい街だと思えます。

神社やお寺などの文化財がたくさんあり、東山や鴨川といった自然が上手く調和していると思います。そして、意外にも京都駅前や四条通といった東京にも似た新しい町並みも広がっており、古さと新しさとがベストマッチされているように、僕は感じています。

僕は、このような、たくさん素晴らしい所がある京都という街を、いつまでも守り続けたいと思っています。

そのためにも、先ほど述べたような「マナー」については大切にしていくべきだと考えます。京都に住む人はもちろんの事、やつて来られた観光客の人達にも、ぜひ「マナーを守る気持ち」を分かっていただきたいと思うのです。

京都に住む者は、街をきれいにする事を日頃から心がけ、誰に対しても思いやりの気持ちをもつて接する事を忘れなければ、観光に来られた人達にも「マナーを守る気持ち」が伝わってくれるよう思います。

今日、この話を聞いてくれた人は、どうか、まわりの人達にこの気持ちを伝えていただき、輪を広げてほしいと思います。

そして京都が、きれいで思いやりにあふれ、街と人とが共存できるような、すばらしい街にしていこうではありませんか。

（京都市中学校弁論大会 生徒発表作品より）



写真資料：祇園祭の裏風景

「京都市立学校 道徳教育教材・指導案集 一京都ゆかりの教材を用いてー」  
平成28年4月発行

■編集・発行

京都市小学校道徳教育研究会、京都市立中学校教育研究会道徳部会  
京都市総合教育センター指導室・研究課、京都市教育委員会指導部学校指導課

■この冊子に関する問合せ

京都市教育委員会指導部学校指導課 電話：075-222-3808



